

先進技術の壁にぶち当たっても、組織力、会社全体で一歩一歩乗り越えていく。

「AI・画像認識のSky」を実現したい。



Takeshi Kawano

大学院時代に没頭した画像認識技術の研究を、Sky株式会社の業務で活かしている河野。社内外のAI・画像認識技術展示会でも中心的な役割を果たし、時に複数の展示会準備を並行して進めることも。「AIの活動を、社内の方に認知していただくために、社内行事の合同式典の技術紹介を、3年連続対応している」

急成長するAI・画像認識事業 Sky株式会社が創り出す 未来を見据えて

Sky株式会社

クライアント・システム
開発事業部技術部主幹

河野 武

「新しいことにチャレンジして実現し、次のステージに進む。自分が想像し得なかった新しい世界がどんどん目の前に広がってくるのが、純粋に楽しい」

世界規模でIT技術が発展する中、車載ECUやFA(Factory Automation)、医療など幅広い分野で進化を遂げているのがAI(ディープラーニング・画像認識技術)だ。河野は、Sky株式会社のAI・画像認識技術グループのリーダーとして、社内外の展示会に出すPRコンテンツの制作や社内の教育カリキュラムの作成、関連業務の案件獲得に日々奮闘中。

また河野は、何度も「Skyスタイル」と表現される部署間の壁のなさや社員同士のコミュニケーションの取りやすさ、社内の知恵を結集して顧客の要望に応じる「ALL Sky」の文化に助けられてきた。

自身やチーム内で分らないことが出てきたら、社内SNS(Skyな)を利用して、さまざまな部署の社員に相談する。その分野や技術に詳しい誰かがアドバイスしてくれるからだ。当然、河野も自身の知識や技術が役立つ局面があれば、快く相談に乗る。「部署間で協力して案件を取りに行くこともあります。会社として全力を出してきているのは常に意識しています」

「AIの分野は、日本は遅れていると言われていますが、現場の実装は、まだまだこれから勝負だと思っています。そういうところを当社がけん引していきたい」

先進技術とともに疾走する河野の瞳は、Sky株式会社が創るAI・画像認識技術の未来をしっかりと感じている。

「この程度か」とは思わせぬ
先進技術のスペシャリストを育成

時を経て、がむしゃらに突き進んでいた河野の役割もプロジェクトチームのメンバーを率いる形へ、社内全体を見渡し、メンバーの技術力を高める仕組みをつくる形へと変わっていった。

AI・画像認識の分野に切り込もうとした時、大きな課題となったのが技術者の育成だ。河野はまず、画像認識でOpenCVというフリーのライブラリを使える技術者を増やすための教育カリキュラム、AI分野の教育カリキュラムを作った。技術者の育成が進み、以前はなかなか難しかった案件も取れるようになり、売上も安定してきました」

社外でも「ぜひこの方から学びたい」と感じたAIや画像認識分野のスペシャリストには熱心にアプローチし、社内研修の講師を務めてもらうなど、技術力アップのための社内研修にも余念がない。

常に全力で案件に臨む。社内の知恵を結集する「Skyスタイル」

河野が考えるSky株式会社の魅力とは何だろうかと、「やりたい」と思うことに対して、実力がちゃんとあつて段取りもしっかりやれば、実際にできる風土ですね。



[社内イベントにて]
全社員に向けてAIの取り組みを紹介する河野

の組み込みソフトウェアなどの開発に携わる。コピーやファクスだけでなく、クラウド連携などさまざまな機能を備えた複合機が開発される中で、河野は、先進的な機能である複合機でウェブアプリを動かすための組込ウェブサーバー機能を担当。ユーザーの好みや使用シーンに合わせて、販売会社がUI(ユーザーインターフェース)をカスタマイズできる機能のサンプルアプリなどを制作した。

そして入社後、12年経った2016年、現在所属するAI・画像認識技術のワーキンググループへ。他チームで発生した画像認識の案件を小耳に挟んで、学生時代の研究経験をもとに「横からしゃしゃり出て話に入っていく」のがきっかけだと河野は笑う。

「足りないからできない」ではない 地道な努力でピンチもチャンスに

河野のチャレンジを支えるのは、これまでの仕事で培った粘りやタフさだ。課題に直面しても冷静に現状を分析し、小さなところからでも突破口をつくって、仕事を進めてきた。その原点は、新人時代の苦い経験にある。

入社1年目で、自ら志願して自社商品開発チームに配属となったが、壁にぶち当たった。ふとしたことから仕事がつまらなくなってきた。上司から業務に関して指導されることも増え、自信を失っていった。しかし、河野はそこで終わらなかつた。周囲とかみ合わないことも、メンバーが集まる場には積極的に顔を出し続けた。そのしぶとさが、後々の仕事に生きていく。

モバイルグループ時代の終盤、国内で開発した機種をヨーロッパ向けにアレンジする開発グループにアサイン。少数精鋭で臨み、時差があるヨーロッパとの開発は困難を極めたが、なんと初号機を世に出した。MFPグループ時代に市場不具合が発生した際も、地道にログを解析して、顧客に真摯に説明した。

現在は、AI・画像認識技術の展示会で興味を示した顧客に粘り強くアプローチし、課題や悩みを具体化する。そして、Sky株式会社が実現できる解決策を提示する。大きな案件でなくとも、クラウド環境の構成管理やAIの学習データ作成といった細かい業務から入り込み、虎視眈々と切り開くチャンスを狙う。「お客様が求めている技術力に対して、われわれの技

河野が学生時代の経験を活かし、初期メンバーとして立ち上げに関わった同社のAI・画像認識技術分野は、初出展した2016年の展示会での好評をきっかけに、4年間で売上7億円規模、約80人が稼働する事業へと急成長を遂げた。河野の社内外での積極的な認知活動が実を結んだ。

同技術は、医療分野(検査等で得られた数万枚レベルの画像データから必要なデータを抽出し、病理箇所を絞り込む診断支援)、カーエレクトロニクス分野(車載カメラから前方車両や信号・歩行者などを検知、白線を検知してレーン(車線)キープ)、工場関連の分野(センサーの波形データから装置の異常を検知)等実用・顧客(スーパーコンピュータ「富岳」の開発責任者を務めた)や上層部の信頼を得て、社内でのAI・画像認識の動きを加速させてきた。

「自分でゼロから立ち上げたものが、まさかここまで発展するとは」河野は驚きとやりがいを感じている。

モバイル・デジタル複合機(MFP) 時代に即した事業にチャレンジ

河野は大学院時代、周りの学生が企業の研究職への推薦枠で就職を目指す中、「開発の現場でバリバリとソフトウェアを組む仕事がしたい」と考えていた。同社に入社を決めたのは、「ソフトウェア開発がやりたい」というシンプルな思いに対して、純粋にソフトウェア開発ができる」という点がしっくりきたからだ。社内にも根づく実力主義にも引かれた。

入社後は、自社商品開発からスタートし、1年目の終盤でモバイルグループに異動。7、8年モバイル開発にかかわった。当時は、今でいうフィーチャーフォン、いわゆる「ガラケー」の全盛期。Sky株式会社は数千人体制で、メーカーの元でシステムや機能の開発を進めていた。

河野は、ガラケーの花形ともいえるカメラ機能のグループに所属。静止画や動画の撮影機能やバーコードリーダーから始まり、顔検出システムやタイムマシン撮影など、新機種がリリースされるたびに河野が開発にかかわった機能が追加され、CMなどでフォークスされた。

その後はMFPグループに異動し、デジタル複合機

Company Information

好動力! 「仕事が好き」と言えることは、それだけで大きな力になる。

Sky株式会社は、河野が携わったモバイル、複合機、AIなどお客様のシステム開発、評価に取り組むクライアントシステム開発事業部と、SKYSEAやSKYDIVなど、自社商品の開発、販売、サポートを行っているICTソリューション事業部の2つがあります。今期の売上げ目標1000億円、2025年度には3000億円を目指し、全社一丸となって取り組んでおります。Sky株式会社では、「好動力」を掲げております。私たちは「3つの好き」を大切にしています。多くの社員は「好きだから働く」という思いを力に変えて活躍しています。夢中になれる「仕事」で「仲間」と共に成果を上げることが好き、そしてそんな仕事好きな仲間が集まっている「会社」が好き、それらの思いが会社の商売へとつながります。

会社概要

社名/Sky株式会社 設立/1985年3月2日 資本金/4億5千万円
本社所在地/東京本社 〒108-0075 東京都港区港南二丁目16番1号品川イーストワンタワー 15階
大阪本社 〒532-0003 大阪府淀川区宮原3丁目4番30号ニッセイ新大阪ビル 20階

